

昭和八年 (1933)

Imaizumi Shigeyo

NU TA KUTTE

IRU

AIDA

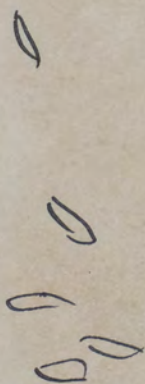
TEN GOKU

1933.

— 8.24. —

SHIGĒYO

IMAIZUMI



漫然 とかくからといふんをう 漫画

偶然 とかくからといふんをう 偶画

日記の原にかくといふんをう 日記画

まあ、とにかく、その中には漫画もあらう。偶画もあらう。スケッチ

もあらう。ポインツ繪もあらう。内容にはかまわない。

まあ、とにかく、その中には漫画もあらう。偶画もあらう。スケッチ

とにかく繪、まじりたが、強ひまつたてなくたって、繪でなくたって

かまわん。

まあ、とにかく、その中には漫画もあらう。偶画もあらう。スケッチ

らうてんた。

めたくつてあるあいたてんごく、X、Y、Z、



1933. 8. 27

日 1/6 6 1/2

物凄いながある。

やをら、腰をおうす、まず、上夜を

めき、バンドをこめををし、ブボンのポク

ットからめき出した、日本年、拭を四つに

ながく折リた、み、長い髪を

ひとふり、頭でうころに、振りあげとい

懐直を、動作で、た、んだ年めぐ

いをはいた、ぐちね、もつて、おって、そして

両手も、うころに、おいて、キ、ハ、ツと、眠が

つりあがるほど、鉢巻をこめたの

である。

眉もニミ、ま、上げ、さげ、こ、具合をた

めして、さ、こ、よいと、なると、おるむろに

た年の止に、ほ、ずるを、ついて、隙で

おわむりして、おた、僕の方を、じロリと

めて、おかに、おうれし、さうに、微笑笑、こやがった。



早稲田大学新小広場

1933. 8. 27.

大学前

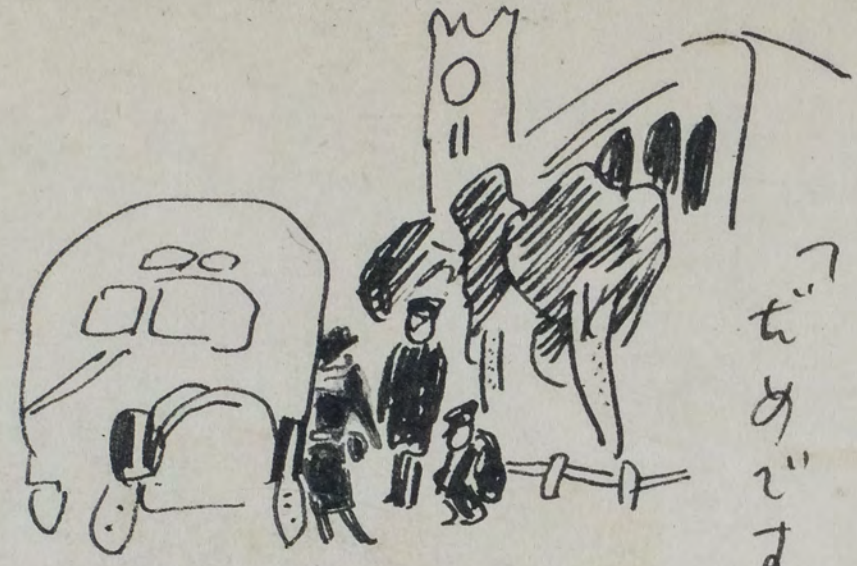
急の抜けたビーンがあかしのせう  
習の休みの大学ふりし 随分へんち  
ものだ。

集合バスの ~~目~~ <sup>野</sup>目さんがせ車掌  
さんにたずねてみる。

「はいはあつなは ありますかね？」

(運) 持手さんがいきとつて

「だめですわ、ありませんわー」



「これ 新橋がうーニちう

への時は すこしは あり

ますが、 ①十橋 申がし

向への時は、 ほとんどあ

りませんわー」

と可々よしい 声の 女車掌さんは

いって

美術館のあたりから  
料子博物館もながめた所

秋の美術シーズンと目覚めと  
人出も除いての月火水木金土  
の午さがりさんてあうものは  
生きて動いてあるものを余りみかけ  
まいのが、公園である。

休むに都合のより木かげはべらほー

に高の休み代もとる。茶店が

と仰こてあて、赤いケフトなどいい

たこよろぎて要実生をつくつてみる

んで、大衆はこかたをいた玄漢

としてサリウ沙漠の扱をほこりポイ

道も秋のやけに焼けつく陽を斜にうけ  
ながし汗をながして洒ふ。





1933. 9. 1.

約束の大会と会合のために 隈さんと二人で  
上野の図書館に出かけた。九月一日で 休館まで ガツカリに、  
秋晴れで 乾いた空気が サクサクと 上野公園の 田路を意味  
なく 語りあひながら 散歩した。

崖深本部の。縁音がうつくしく  
屋根においた。明治風の建  
物をたにみえ。かたをさしに  
固めらせた、ツルツル滑り  
さうな、アハルトの坂道を登  
つて行く。土午のすぐ屋の  
あたりは、冷たい石材をつみあ  
げながらこれこれ探さ、真白の  
新築事業のすごく大かき工  
が、あひかぶさる探にいかへ  
てある。

土急のバラック、丸太とトタンで  
くみあげた小屋、一面の  
ペレペレの岸。ここがここである。

建築材料、ゴツゴツかへした  
廢産の探を ざんがい がその  
向くつめたく、大きい。近代建築  
の根もとにここがここである。

一日の苦働かつかせつたサラリー  
マンが足のはこびも107。  
建物にみまわらせす、う、う、と  
坂を登つて行く。



1933. 9. 1.

新漢事堂

コウモリ

だ、いらいのが取えん。

都心のママに「サガ」が 神経衰弱に

なった奴は 町たま、この丸坊に

来るよ。

深呼吸を 五十六回して 空と土とを

おあげみさげよ。こゝ 教回、大佐は

をるはずだ。

そのは 天皇陛下下も 2"ざらつこゆる、

日本人らしい奴を、精神一列し

て、言葉をさげればよい。

そので、 命令がよくわ——この奴は

仕方がわ——、近くにあり、皇帝劇

どか——の闘牛士にでもみろ！！



1933. 9. 1.

二重橋前広場

万世橋——橋の下

むっ！と胸を 山笑く ×タンガスの噴火。  
ゆちくとどんよりとみえる 紺色の  
どろ水。  
下水から ドクドクとはき出さる水  
ゆる 汚水がドボリくと 河水に混る。  
でど。 九月晴れこの 淡黄色の  
太陽は、橋を建物をカッパと  
一色 漂白したお水も 純白に さらさ  
らげて 溝水も ちゃんとなく 面白く  
ゆゆる 銀色の 鏡は 変入してある。  
都会の 夜の 早あきを ニッとちいほご  
差大いいのとしてみよう。  
だが、ちよいと、俺には 足合はずぎの  
や、こいさだ。



1933. 9. 3.  
万世大桥

日比谷公会堂。

表からみると市政會館で上巻からみ  
ると公會堂もさうな。

この公會堂も、時々、舞臺の演

演の時、長蛇の列。長蛇の會、女

嬢の雲集。ボウシング、キッポ仲買人

の潜行密集。軍樂の夕——は松

田ア十さんから全国へ放送とまきまつて

ある。——

時々、大事件をおこすことがある。

或るヤंत्रीの夕。

僕と七かゝが二人で、急ぎ急陽々として切符

を買って、定刻まで下場した。

行くほどに、ささるほどに、女、女、女

令嬢、夫人だ。

つまるほど、ヤंत्रीも大衆化したな——

とあらいながら正面をみると。

↑  
大看板!

↑  
の常盤血津血羽の会し





1973. 9. 3.  
内幸町



新宿の中村屋事件

新宿にも名物がいろいろあるが、その一つ  
に中村屋がある。中村屋にも印交  
カシーやロシヤチョコやいろいろ名物があるが  
支那まんぢうもその一つだ。  
ここの支那まんぢうには、肉まんも餛まん  
とある。

よくお客が求めるとみえて大抵は売り切  
れである。午後もおきくなるよとあった。ためし  
がない。

で、まだ、味あつた事のな、僕とすむがらんが

試食をすよ事にしてボツクスにおさまつた。

ロシヤ服の信仕君がうやくしく来たのでちがらん

が、

君 まんじうを二人が

と何のとはりボツキう棒にうらつた。

信仕君、一當うやくしく

あの、唯今、餛だけしかありませんが、と、

あつたのはすむがらんが、残念さうに、

え、餛だけ、が物はな、いんか、

勿論、信仕君、すむがらんより、と泡合つた、



1933. 9. 9.  
~~~~~

# 世界人口問題

マルサスは、このまゝで世界の人口が増加し  
ておいたら数百年の内に食糧問題で人類は  
行きまづまうと云つた意思味の事を云つたさ  
うだが、

現在世界の人口は約二十億で、百年前は  
約十億だった。百年に十億ふへたって  
款だ、

学者の説によると、この地球に人口の倍み  
うる限おは、現在の学問知識の程な  
どは、まあ七十億か九十億ぐらいまでいら  
うと各自の把握によつて、夫々の数山をも  
計出いてある。

すると、まだ地球は現在の人口の四倍くら  
いまでは平気で支へるゝて事はなる。

このまゝでも、四五百年はまあ大丈夫な款だ。

まあ、これで一安心して生きて行く事が  
あまるゝて款だ。



1933. 9. 9.

せみとり。

わんぱくこぞうの いちだん 六七人が、い、その  
みつけたとばかり、 雑木の木かけのやぶから

一直線に 首十本をふみにじってやつて来た。

僕のまわりを とりかこんで、 たまって、 びしょと

僕の<sup>もと</sup>手<sup>もと</sup>をみつめてゐるらしい。

~~お~~ 評を下しやがらんので、 なを 気味が

わるい。

いちばん ちつちやい 野郎が、 つかい、 と

とうく 立った。

ぞ、

ホツとした。



谷

中野区

1953.

9.9.

东京郊外

山々の色

丘と丘とのあいだの谷まっしほとどほ  
くほ<sup>地</sup>。

丘もくほ<sup>地</sup>も木々であほはれ<sup>て</sup>ある。

けやきが一本、そい<sup>え</sup>丘の上<sup>に</sup>つきたう  
〜ある。

くほ<sup>地</sup>のむ<sup>ろ</sup>はこあたりにも一本。

木の世帯がくほ<sup>地</sup>に四五軒、まがあるう  
〜。

よくある小工場<sup>つて</sup>ちか<sup>い</sup>平家のあたり  
おえの家の標<sup>を</sup>トタン<sup>の</sup>屋根<sup>の</sup>家。

電柱<sup>が</sup>う<sup>ち</sup>二本<sup>だけ</sup>がヒラコマ<sup>して</sup>みる<sup>から</sup>  
大方<sup>そう</sup>ふん<sup>だらう</sup>。

金あみの標<sup>を</sup>ものがみえる<sup>から</sup>ニワトリ  
に関係<sup>が</sup>ある<sup>か</sup>あ。

金<sup>糸</sup>がまんとまなく、ごち<sup>あ</sup>〜と

慥<sup>し</sup>木の金<sup>糸</sup>績<sup>び</sup>ひつ<sup>と</sup>する<sup>る</sup>感<sup>心</sup>じ。

グシヤ〜した<sup>え</sup>持<sup>持</sup>。

一月<sup>の</sup>太陽<sup>を</sup>あ<sup>した</sup>う<sup>う</sup>……ベツ〜。





1913.

9. 9.

中野街道

効外

東京の効外で一番の効外らしいのは

何かして云うたら まづ 白黒のまん

まかにフ、たつてぬる コンクリートだて

の風も白屋の煙突だらう。

所によると 風も白屋のアントワガニ三

本とめもはるかまゝ送電塔めだ

けしかまゝくあとにはまったく人跡まれ

な野原 まんまのころある。

コンクリート建ちまじ行かぬえふらや

はくろい鉄のアントツに 赤い鉢巻

きをさせしめる。

ボツくはえち 野菜畑けとかす

かにみえる 雑魚木林と なだらかな

丘の丘 俗々と ぼつた山丘と 雪隠と

チヤチヤ新い家と 新い道が

東京の効外だが 所々そうでもないところ

もある。

街道すじをびすすこときしふ。



中野車站

中野車站の風景

1911. 9. 8.

「金二田也」とか「金五田也」とか書かれた事紙  
が舞を横手花道の壁よびのにけられる。

二田也が一人、三田也が一人、十田也が一人。

「あの人十田也か出ささいのよ。ケケ物。大なる厚敷  
さしせし。って。さ、やさ。

人の群ぐんが集え芝居が本格的になる来ると  
壁は半紙で造りだにまうすた。

そいつを張りあげておろ。テラく。した襦袢の  
裾すそさん。まっしろにまうた。その壁をみわたして

「のめるぞーじ。ってな。顔でニヤク。こゝろ。

「暗幕サで敷へてみようか。」「百田以上。はなるとわ  
つゝ命の活。

毎科まいしいで。下駄げた係けいの茶番がすむと。幕が  
こまうた。

「古田所才四郎。こ大なる字が書かいてある。

足物人は白しろ浪良なみらのすそをばたくとあほる  
別べつに蚊ぶんもおおおが。やっけり。足をパタリク

させたほろが。こんふ。野天芝居をみる気分  
がある。

すげえ。日本画の半月がすぐそこにある。



1933. 9. 10.

雑司が池

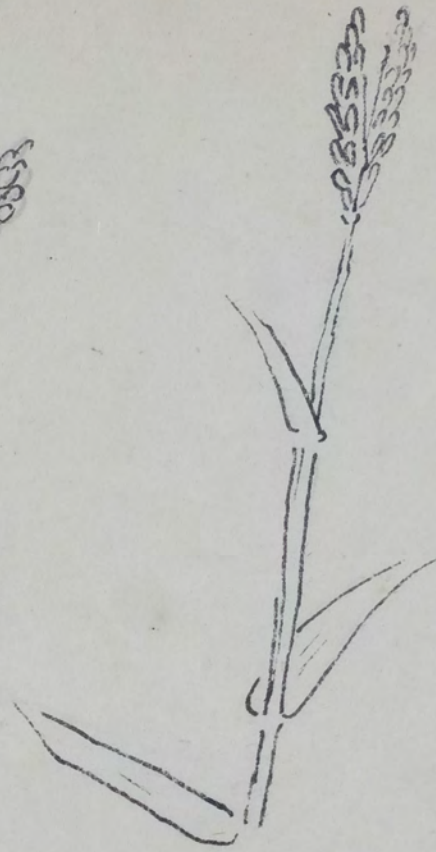
大徳神社 祭礼の夜

広場にお来た。舞台の祭礼。



(クボシバ)

(葉が細い)



(ケカモノ)

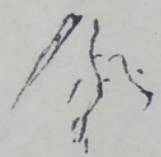
(葉太し)  
根がリザリ)

とがらう  
みん



(クボシバ)

(葉割ニス)





1933. 9. 15.  
上野公園.



1933.9.14.

日比谷公園山手園における

プロレスリングの8回戦





エストン 堀 の 名 に と ん  
 か ざ る そ の 強 打 の 連 打  
 は 遂 に 一 回 よ り KO. ラウ  
 ド の 五 回 ま で 完 全 に 橋  
 本 を コー + ● - に ち ぢ み  
 せ お う せ た 。  
 み ぢ め ち の は 橋 本 だ つ た 。  
 恥 し 外 侮 し ふ り ず っ て  
 猫 の 子 の 孫 に 二 つ の ぐ  
 ー フ の 蔭 に か く ち て  
 ず ち さ ん ち っ て み た が ち  
 ず お そ い く る ボ デー に 対  
 する ベ ス ト の の め 五 回 目  
 半 ば 朽 木 の 孫 に 7 回  
 ぐ ち ぐ ち と マ ツ ト に す わ り 人 だ  
 そ い 堀 の 子 が 高 く —



1933. 9. 16.  
荒川

荒川

東京市も荒川あたりまで行くと東京市らしくなくなると来る。

水濁れいれを背景色がいどく、僕さまの

標に山と田と、こがらうま、人向もあ、

てい、こは、こんふふか、だと

思はせる。まよほど平地だ、水はあんど、田らしくし

こはあふい。

林はあんど、雑木林、

雲はあんど、たぎれ雲、

水はひかこ、油ごみと、潮に逆流し

こめる。

東京の方向は、工場、工場、すぐ

そと、街と野とのくぎりめがつけて

あつて、ふりがへ、水は、放水路の川床が

と、緑には、こなく、おがこ、肉、東平

野の地平線りか、すんで、みえふい、

山をど、む、ふ、ふい。

荒川は、田舎の川らしくこふい。

そ、う、う、ボートさへ、あ、こ、な、け、り、や、い。



新設  
P18 5

933, 9, 18.

龍田川上流

放水路の玄々として水流がいとすじ  
あるまじりの川床と土年一ツ階りには  
甘ん川はなつてあるあたり。

放水路の一方はあくまで、田舎平野  
風日よで、甘ん川の一方は、都会を去  
るまで、工場風も涼をこめてぬる。

スカール、モーターボート、カレシダの  
レースボートが近代遊をそと白を  
橋をくぐって、ミズスマシのおれ、スイク  
と水面を滑りゆく。

時々ポンク、せせがきがより下りす。  
まの空、4ギシ空、小春日知、芝生  
水草、砂ほこり、快よくいじり出

る汗。重たいゆ本の大山をるめ  
た大きな柳突、煙、電柱、  
鏡みのおれを水面、昆虫取りの女  
学生、キヤツク、水泳してゐる裸  
の子供ら。土年下を走るトラツク。



1933. 9. 16.

荒川の現場  
(Tokyo Motor Club) 附近

モーター ボート

ほんとはわかましの物

あいたは競争があるから大分く

るだらうな

やんざいエサのからくるってさ

ニエムでいんふにわかましの物

ほんとはやんざいさうさうさうさ

ほんといままてくるをんふの子とて

下手よし

すぐエーターをストップさせるの

たっそそりや機械がわるんだよ

スクリューが空まわりするんだよ

顔はちよつとまこだがとんかく下手だわ

空まはりするからストップするんだよ

でもけりや焼けつちあふからわ

あらまた上から一〇きたわよし

或る晩、新宿から山手線  
に乗った。 [redacted] [redacted]、  
女の方は、Kと M。  
ラドリコ氏だ。



1933. 9. 17. 某電車の中

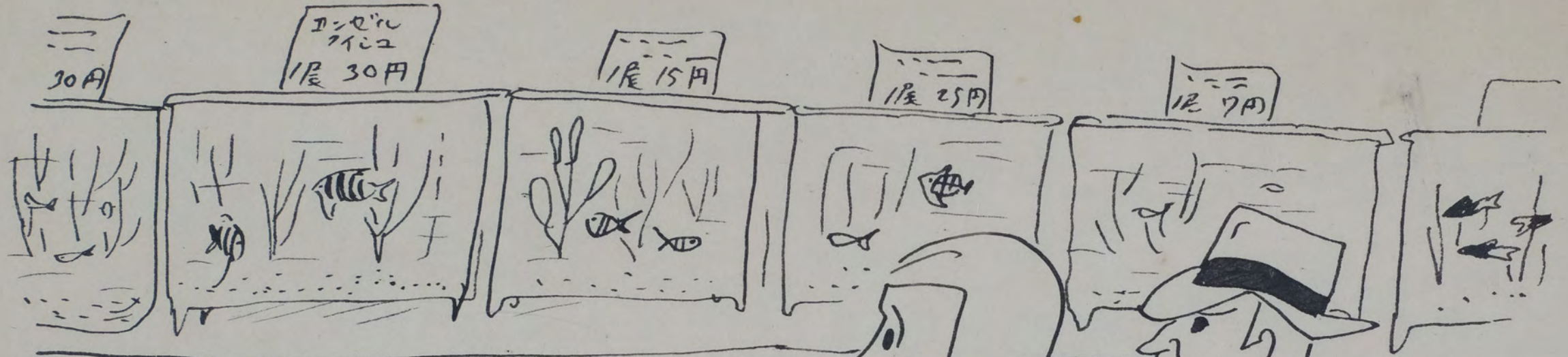




白世流

圖書館 = 7

1933.9.18.



目下大流行の  
熱帯魚各種類  
宣傳販賣



あー  
つくたんの魚と  
たーしちあまりは  
ちーぢあまーがし

1933. 9. 20.  
銀光子ビキ

熱帯魚のツクダ者  
なんこのを作ると  
大変な事になるぜ  
いのの辨当函に入  
れど 腹一杯食ふ  
には三百尾必要せ  
どとして  
一尾三十円ぐらい  
になる？  
ウー！ 九千円  
ツクダのツクダ者  
一万円ホドこれをして  
のはー

銀座。

銀座の書屋は何故に、銀座で書ける事によて。一日の満足を得るにや？  
そこには、快活になる、散歩があるからである。

何故そこは快活になる散歩があるにや？

そこは快活になる。舗道があるからである。

何故舗道が快活になるにや？

何故舗道が快活になるにや？ ..... 1？

そこで彼氏 研究したのはのである。

往來する事 数十回。 遂に理論を完成した。

即ち！

銀座の書屋の人の足のヒロキ具合は敷石の二つのみ角線の長さに於て一致する。故快活なる感をおぼゆと云ふ泉則を。



00 artist  
# 71

Baru  
Kan

maru

1935. 9. 20. 銀座

Mr. Okuma Takeo.

&

Mr. Imai Jumi Shigezo.

(1933. 9. 20.)

S. Imai  
Jumi





明治神宮

宝物殿附近

1933.9.23

神学外苑  
神学图书馆  
1951.9.23.





1933 9 25.

200 4/2 = 7



河向ふ

河向ふ！ イーラストサイド。

すよいと山の舟の人向には縁の無き土地

だ。

何年と東京にゐる人で、普通の人は

なう、浅草には、隅田川を向ふに渡

つて、深川、つて、所々あつて、機会

はやつて来ない。

深川、お崎、こ土地は

名が有名だからピンと来るが、じん

所が、想係でさなかつた。

行くみると、大いこまうた、所、び、ま

唯の東京がたつた。

アスハルト道、かうく、電車、低、バツツ

式のズ、く、いた、店、高、御、唯、ま、え

るのは、河の、事、埋め、た、地、

所、だ。

堀、割、は、か、こ、ま、た、お、か、く、が、あ、つ、た。

で、ス、ツ、ツ、4、す、る。



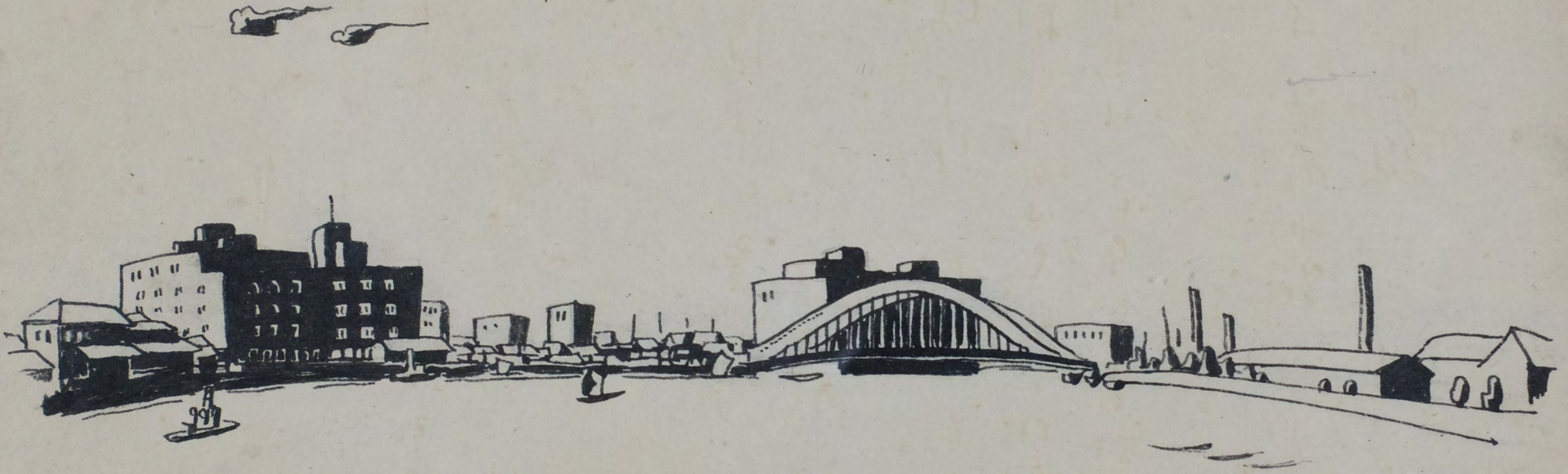
1952 9.25.

石川 1/20 25 止



三 菱 會 社

1933. 9. 25.



永代橋附近

1933. 9. 25.

秋晴水。

檜油の所にドロンと陽白川の水面が、  
水鏡面の所に、晴水切った塔の空を、  
映して眩めいておる。

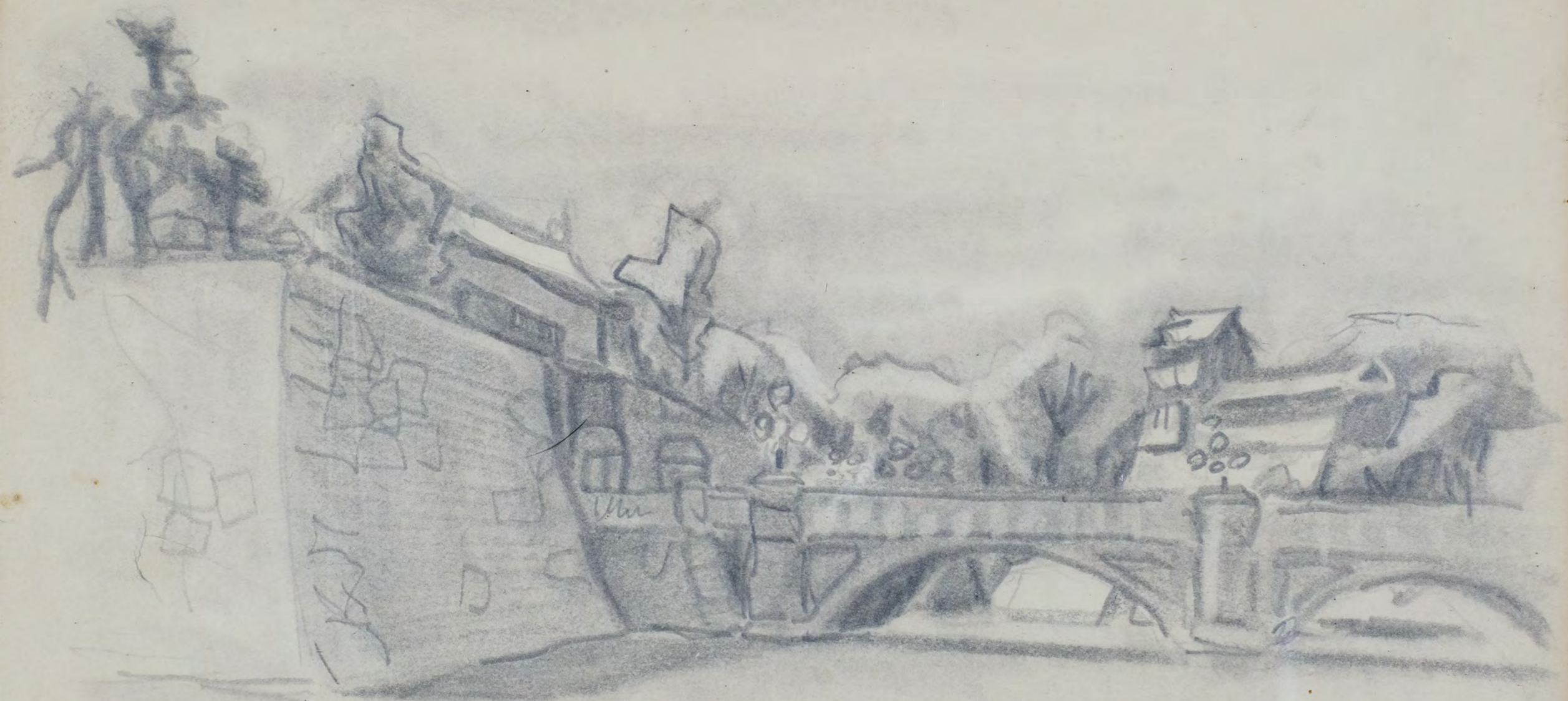
園平舟をじゆつちまぎに、した廿二  
が通るも波はゆるやかに波動して  
山形の波紋を、一杯に、はへるん  
けだ。

ノビヤかな、早ふ色。 互面を

カワト白く、互射せぬ、新ぬの海が  
ん形のビルディング、何々倉庫、つてんだらう  
が、信太！、として、ごみさうした、低か

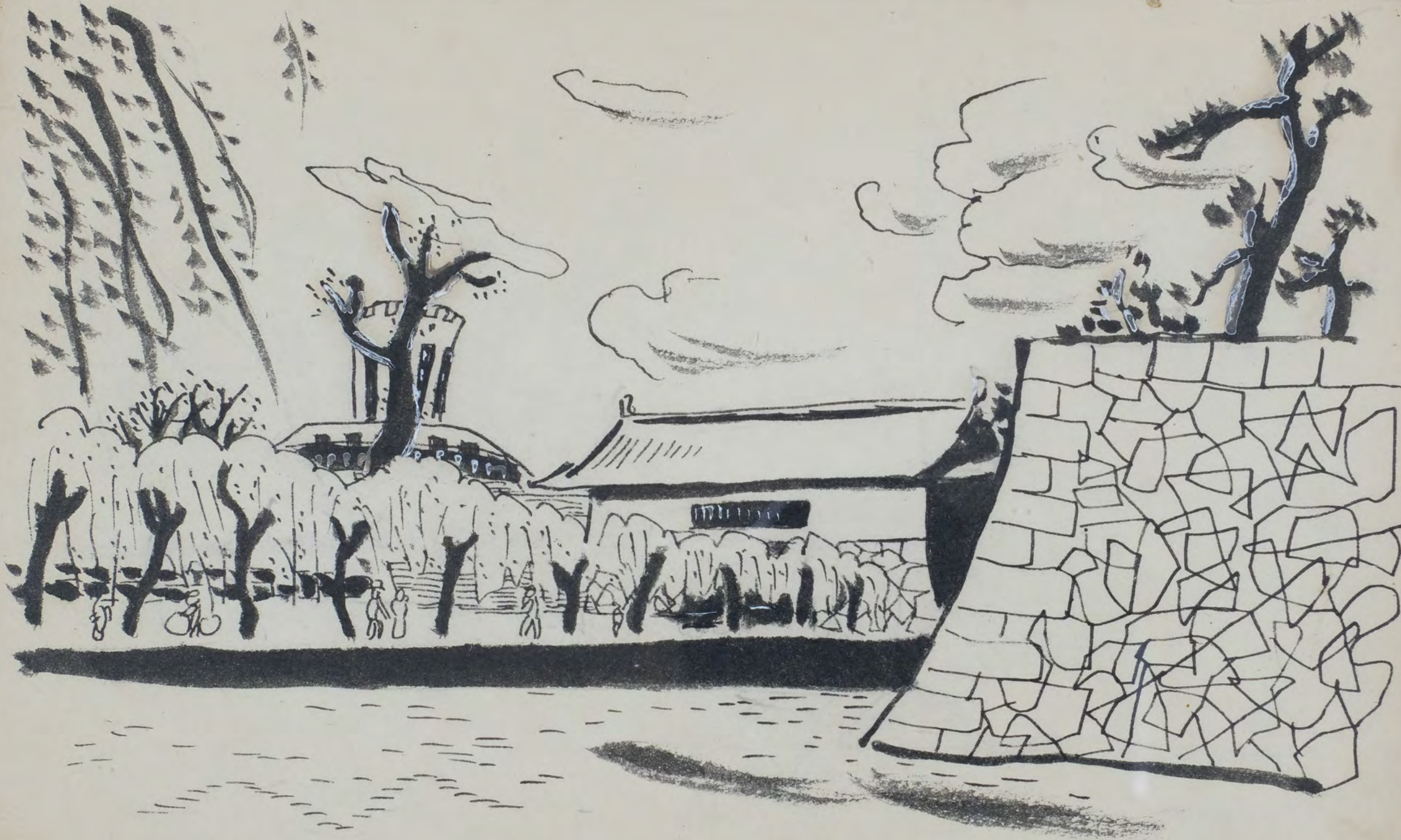
みちれた、東京の、島土根の上、に、そい、え、し  
わか、もの、が、を、だ、そ、ゆ、を、――

比、後、月、島、と、深、川、を、つ、ま、ぐ、電、車、橋  
の中、の、島、の、笑、福、水、上、公、園、が  
出来、て、お、る、肉、人、や、花、い、人、の、4、コ、イ  
と、こ、休、け、の、切、断、は、な、つ、て、お、る、  
此、点、か、ら、ち、が、め、て、お、る、。



1937, 9, 30,

二空村



— 1933.9.30. 濠と龍視亭と内日學 —

秋のデパート

婚服衣裳層層既見、伝は四階あり、あたり、じゆ催  
され、ある、等だ。

は仕度、パンフレットを、一冊、もううとする。

べろくと、はぐると、最低、千五百円から

止は制限、収え、こまで、衣裳の、豪華、華散

が、眼を、眩惑、させる。

こずくと、長、び、金、飾、は、さ、る、行、く。

突、如、と、こ、こ、女、袴、の、田、だ。、ど、れ、田、か、も、四、人、位、居、る。

桃、山、城、が、じ、ゆ、ら、く、だ、い、太、周、様、の、お、

花、見、か、い。

袖、を、い、ろ、げ、た、ケ、ン、ラ、ン、全、身、金、絲、銀、絲

赤、燈、黄、緑、青、澗、色、糸、由、里、白、濃、淡

得、も、え、ホ、い、色、糺、の、海、模、お、の、花、田、

の、お、な、晴、着、の、オ、ン、パ、レ、ー、ド、だ。

面、舞、の、口、は、必、ず、な、く、こ、は、こ、ま、る。

生、着、番、人、か、エ、ス、キ、ー、モ、ー、の、お、な、舞、ま、さ、情、を

人、形、着、が、花、の、ユ、エ、花、の、メ、の、布、切、を、ま、と、こ

何、が、握、り、さ、う、な、年、つ、き、を、こ、こ、ま、る、こ、も、る。

お、か、は、洋、式、女、は、和、式、こ、ッ、ロ、が、な、ん、と、云、つ、し、

デ、パ、ー、ト、に、と、つ、ち、あ、な、ま、に、な、る、こ、か、う、ね。

婚、服、簡、易、化、の、流、行、？、は、何、様、だ、い、せ、う、!!

(一九三三、一〇、三)





1933. 10. 3.  
L. J.

コクリントヤ

四五すくらいの 野球のバットで、ういすの球

をほどの鉄のボールも、満の端から

フリント！と つまあげると 運命の球

はこれくと ころがえ 思はず振りには

50点に近づいたり 90点のあくには フツツか

つたりして 首尾よく ルンペンに 絡って

がうくと いきをいよくもどって来ると

やつてる人 いかにも感心し 耐へてよいと云う

た気持でうーいー！ っとうせよるかう

コクリントうーいーし っとうせよるかう。

さて 銀座もはこの方 人どをりもたへが

おや 末南地へ来ると、今をさかりの

柳の木の下のほうのうすい 御燈の下の

夜店にまでつて。このコクリントゲームのや

が二つばかりのものをうつて字をまっくする。

一回三巻 三白玉をたて 以上の今は今一回お来す

つて事をまたまい ぼんぼん シャツのあきにはこ

の一部を半端に切った奴にはドロリとした

さい、すみじかやあわらう、いたのをひろの横に。

バットはあきあきあーやうわーやーし





「穴」

いさい記念堂の前  
に花をさへる台がある。

何時みても新しい花でその花束の穴は  
ふさがっている。

香煙けるとのぼる。  
花はさびしく香る。

十年前、大正十二年九月一日の  
記憶がバロメーターの標に

この花束の数により、

香煙ののぼり方により  
日本人は残って行くのだらうと

思ふと、仲々うっかりでき  
た「穴」である。

たゞの時の実の穴とは  
穴がすかすか。



1933. 10. 11.

高田、厚場附近

下落合の火車

警官A「こちらは来たあかんもう三人もこの  
鉄橋から落ちたんだぞ... 落ちたのか  
警官B「おい、怪我したか？ 泥まじり  
だから大丈夫か！ くさいだらう！」

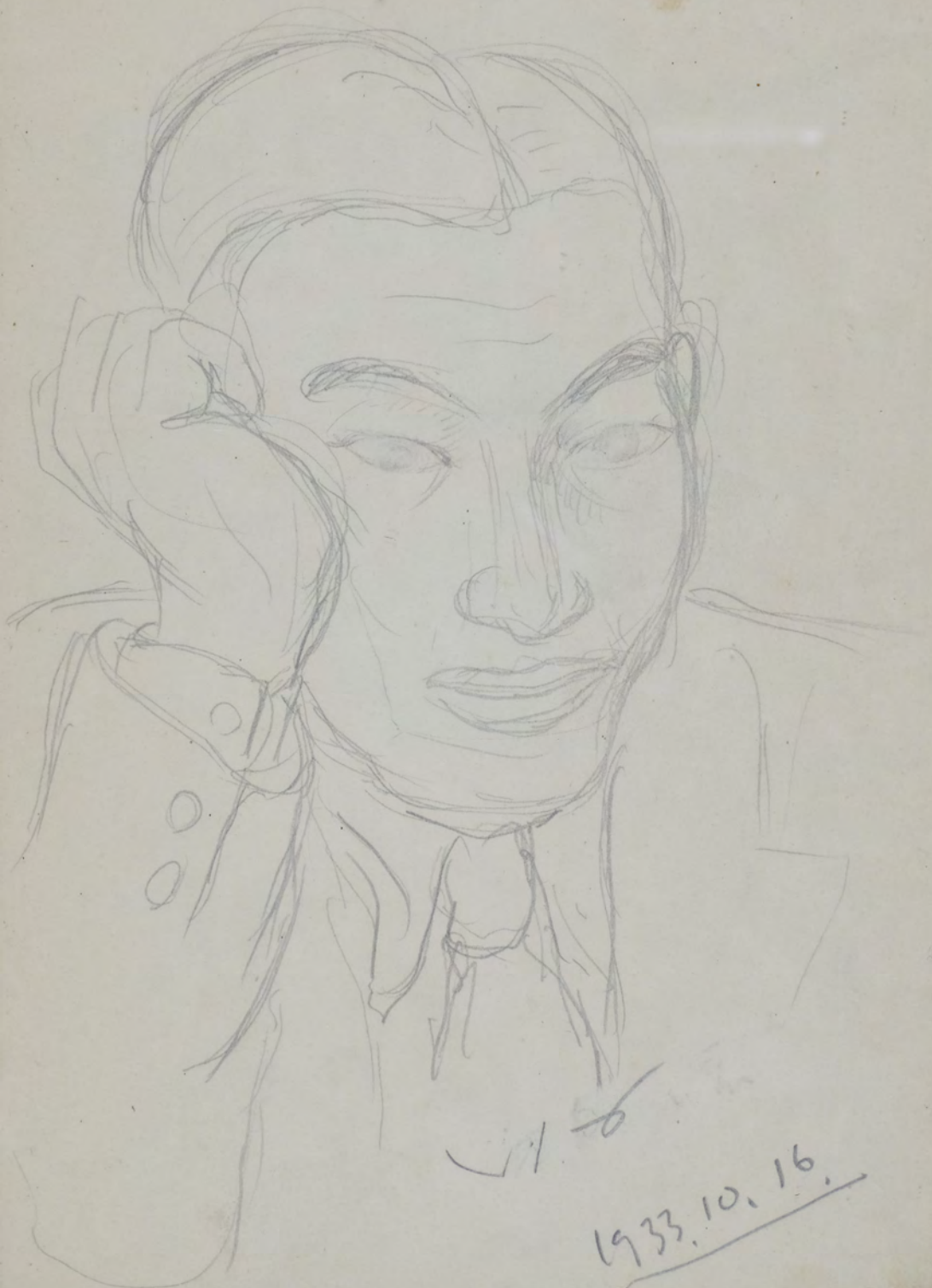
1933. 9. 28.





1933.10.15

Handwritten notes in Arabic script, including the date 1933.10.15. The text is written in a cursive style and appears to be a list or a set of instructions. The notes are arranged in several lines, with some words and symbols separated by lines or dots. The handwriting is somewhat stylized and difficult to read precisely, but it seems to contain a series of points or items.



W. O.

1933.10.16.



15 会式

去年の秋の 15 会式には、本内寺の  
お祭りに出かけて 燗 画の 瘦 を 拾 ~~り~~ 所

つて来たが、今年には、年とともに愛を

高めて、雑司が谷の 古き せき 逸子世

神 の 雑踏 の 中 を 遊 <sup>び</sup> いた。

MISSUS. ASHIZUKA に MISSUS. SUMI

との三人 だ さん だ さん だ さん <sup>三</sup> 遊 ぐ の も 木 だ だ だ

胸の前に行きついたら、お月中は汗で

ビシビシヨリセった。

「フヨイナ」と太鼓を打って行くのも

あはば「東京も預りもある。

中の一きは太鼓がそろい、執心は法座

華燈をとちへて行く方七人の牡丹の一組

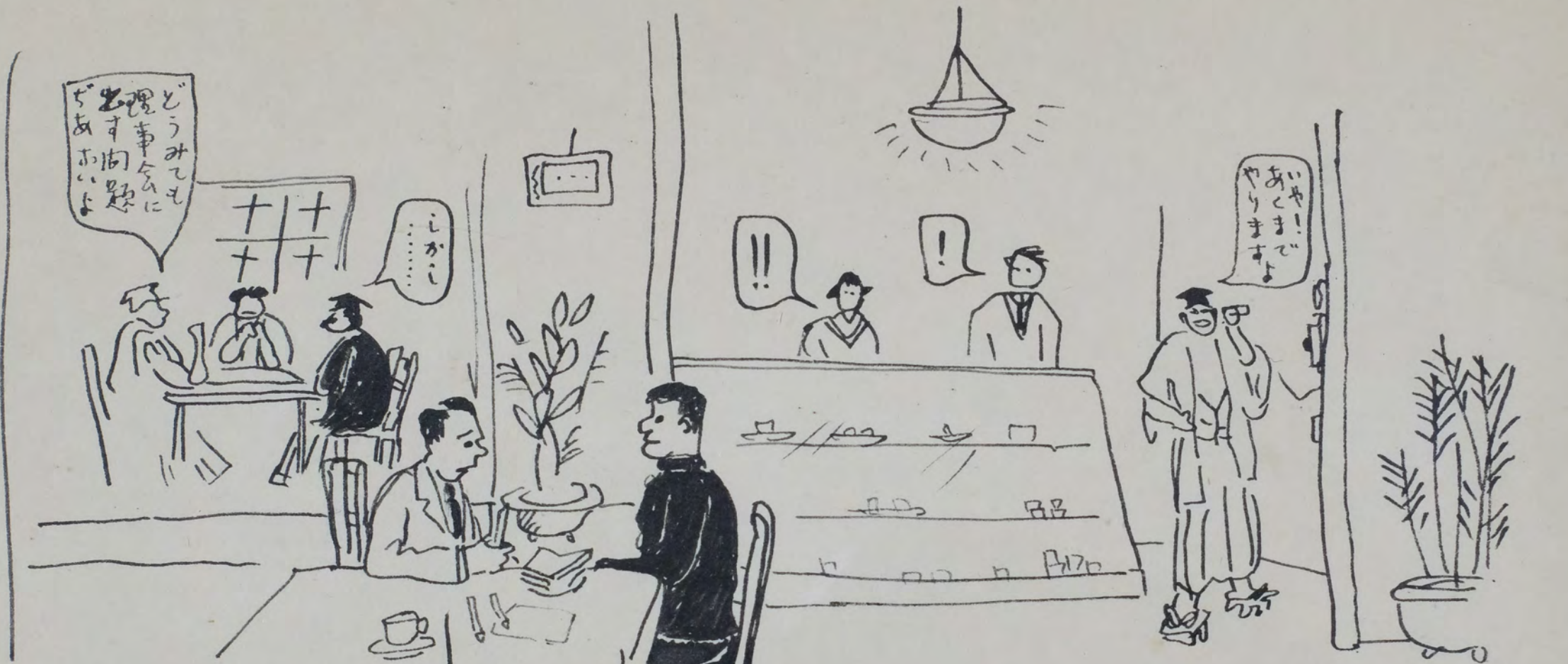
後をみればナセバの娘達の一隊が懐い

みる。とーりどーり！



鬼子田神様のお祭り

1933. 10. 18.



どうも  
お世話  
になりました  
ごめん  
な

|   |   |
|---|---|
| + | + |
| + | + |

しかし

!!

!

あー  
やります  
まで

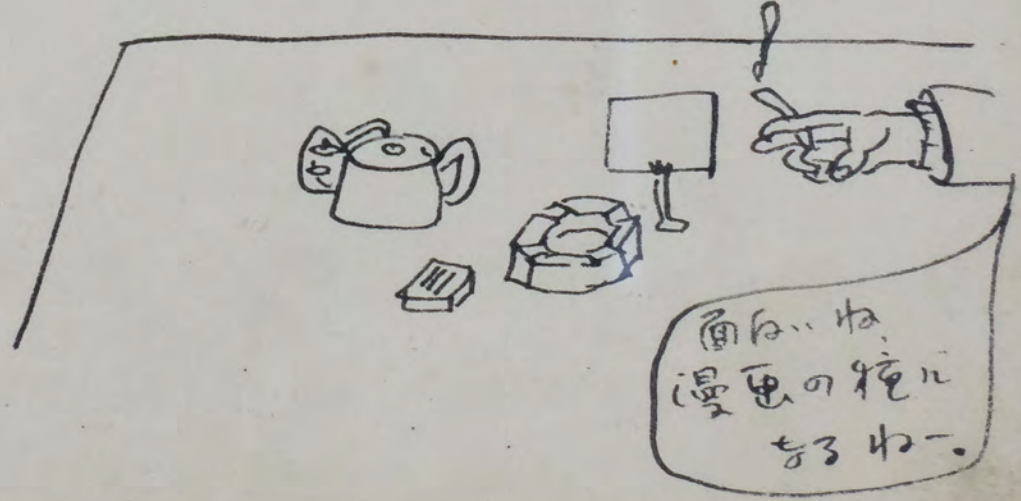
早慶野球戦後記  
(リッポウ 強勁)  
慶應園新報

慶應と早稲田  
の試合の  
方針は?

そやがね  
仲々会は  
おいのどすよ  
その事を書  
して下さ

[ライターカード]

1933. 10. 24.



面白いね  
漫画の種に  
なるわー



1933. 11. 1.

初入社之早

